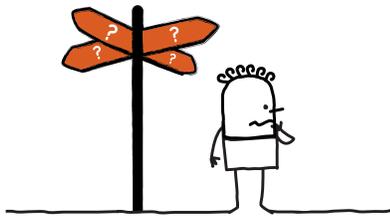


迷子になることについて

GETTING LOST



アルツハイマー病や認知症の人は家から一歩外へ出ると迷子になることがあります。時には公共の場を徘徊することもあります。散歩や買い物をしに行ったものの、帰り道が分からなくなったりもします。家の住所や電話番号を覚えていない場合もあります。

迷子になると恐怖感が募り、危険を伴います。

なぜこうになってしまうのか？

アルツハイマー病や認知症の人に
見られる傾向:

- 混乱する……主に午後や夕方。
- 恐怖を感じる……自宅が前と同じように見えない。
- 昔よく訪れていた場所に行こうとする。一 例: 職場、教会など。
- 騒音や騒がしい場所から逃げようとする。
- することがないため退屈する。
- 新しい薬の副作用がある。

あなたにできることは？

不測の事態に備える

- 認知症の人のため MedicAlert® のプレスレットを購入する。
- 本人の名前とあなたの電話番号を衣類に縫い付けるか、衣類に直接書く。
- 鍵のかかっていないドア付近で一人にさせない。
- 近所の人に、一人で外にいたり、出歩いているのを見かけたら教えてくれるよう頼む。
- 日中運動をさせる。例: 散歩、音楽に合わせて踊る。
- 財布、コート、鍵、サングラスなど、外出を連想させる物をしまう。
- 外出しようと思わせないようにカーテンを閉めておく。

家を安全な場所に整える

- ドア、ゲート、窓にチャイルドロックをかける。
- 見えない位置、または届かないような(高いもしくは低い)位置に鍵を置く。
- 開いたことがわかるよう、ドア、ゲート、窓に鈴をつける。

安心させる

- 外出したい気持ちをそらすため、食事を提供したり、他のことをする。
- 衣類をたたんだり、夕食の準備などといった手伝いをお願いする。
- 一緒に静かに座り、音楽を聴いたりテレビを見たりする。



844.HELP.ALZ
AlzheimersLA.org

© 2022 Alzheimer's Los Angeles
Supported by DHHS, ACL
(#90AL0002-01-00 & 90ADPI0049)

